

科学研究費補助金（学術創成研究費）事後評価結果

課題番号	16GS0311	研究期間	平成16年度～平成20年度
研究課題名	生体内における細胞外マトリックス・リモデリングの役割と制御機構の解明		
研究代表者名 (所属・職)	野田 亮（京都大学・大学院医学研究科・教授）		

【平成22年度 事後評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	期待以上の研究の進展があった
○	A	期待どおり研究が進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い
<b>（評価意見）</b>		
<p>研究代表者が見出した分子 RECK の発現制御と機能解析を、分子レベル・細胞レベル・個体レベルで行い、RECK と Notch シグナルとの関連、RECK が、がんや変形性関節炎などの病態に関わる作用機構、RECK の発現を制御する薬剤の探索などについて新たな知見を得た。</p> <p>当初の研究目的は、ほぼ達成されたものの、RECK の遺伝子改変マウスの作製に遅れが生じたため、研究期間内にはその生理的、病理的意義について深い洞察を得るに至らなかった印象がある。しかし、conditional ノックアウトマウスとノックインマウスが作製でき、RECK の発現制御に関わる microRNA を見出したことや RECK の精製が可能になったことから、本研究のさらなる発展に期待したい。</p>		